

## 『平家かくれ里

### 写真紀行』

清水安雄／撮影 志摩千歳ほか／原稿  
株式会社産業編集センター／発行  
2011年12月／刊

291.09

Ki,88

全国「落人伝説」を追って。

八百年以上もはるか昔、源氏に敗れた平家の一門は、追討の手を逃れ散り散りに逃げ去ったと言われます。彼らが辿り着き、その後も住んだとされる“隠れ里”の言い伝えは全国各地に多く残っていますが、果たして現代、それらの里はどのようなになっているのでしょうか？「平家落人伝説」の神秘的な雰囲気を持たせる集落と史跡をありのままに伝えます。はかなく散った一族の、歴史的ロマンを感じさせる一冊です。

## 『宇宙の「一番星」を

### 探して 宇宙最初の星は

いつどのように誕生したのか』  
谷口義明／著 丸善出版／発行  
2011年11月／刊

443.9

Ta,87

はじまりの星を探し、長い旅へ。

その日の夜、空に最初に輝いた星を一番星と呼びますが、宇宙が始まって最初に誕生した星もまた“一番星”と呼ばれます。一番に生まれたという特別な星に、多くの人々が夢を抱き、いまだ解明されていない謎の正体を確かめようと研究を続けています。宇宙とは？その誕生の瞬間は？一番星はどこに？私たちの住む銀河や、宇宙のこれからのこと、どこまでも尽きることのない宇宙の謎を、一番星探しを軸に探ります。

## 『せんだいノート』

### 仙台市教育委員会／監修

仙台・宮城ミュージアムアライアンス／  
編集 三樹書房／発行  
2011年10月／刊

291.23

Se,59

仙台の愛すべき文化、人を知る。

「ミュージアムって何だろう？」を切り口にしながら、単に「ミュージアム」を紹介するだけでなく、テーマ企画や展示などが催される仙台の街に根付いた文化や人にも幅広くスポットを当てています。動物園、森の遺跡、移動図書館、街頭紙芝居、正月に街を飾る「きりこ」、台所を守ってきた釜神様……。様々な、楽しく愛らしい文化を紹介します。本来ならば昨年三月末に発行を予定していた本書、震災以前の街の記録としても貴重です。

## 『からだにうれしい

### 野菜の便利帳

#### 伝統野菜・全国名物マップ』

高橋書店編集部／編集 高橋書店／発行  
2011年11月／刊

498.5

Ka,62

地域が誇る野菜を一挙ご紹介。

季節が変われば旬の野菜も変わります。私たちはその美味しさを日々楽しみながら暮らしています。都道府県別に、旬の時期や適した食べ方が様々に異なる特産野菜を紹介する本書。同じ野菜で品種を比べれば面白いほど形状が異なっていたり、中には味わう機会がない野菜もあります。佐賀からはおなじみの「さがほのか」や「ひし」の他に、新特産野菜「アイスプラント」などが登場します。

## 『これからの野菜の

### 食べ方ファーマーズマーケット

#### が教えてくれた三〇の真実』

青山・国連大学前ファーマーズ  
マーケット男子野菜部／著 幻冬舎／発行  
2012年1月／刊

626

Ko,79

男子野菜部が、やさしく伝授。

オーガニック、無農薬など野菜の栽培方法も様々ですが、人々が求めるのは安心して美味しく食べられる野菜です。海外には多くあるファーマーズマーケットという、生産者が直接販売する市場のスタイルを都会の真ん中に持ち込み、信頼できる人々から直接会話をしながら買うことができる安心を、男性7人組が仕掛けています。彼らが、野菜と、その野菜を生産する人々との触れ合いで学んだ知識をまとめました。「現場の声」が満載の一冊です。

## 『アッティラ！』

### 初山市太郎／著 光文社／発行

2011年11月／刊

#### 第4回小説宝石新人賞受賞作！

アッティラ大王を崇め、彼が夢で指し示した地を導きの場所と信じ、世界中を渡り歩く“アッティルカイラー”という謎の一族。日本へやってきた彼らと知り合った登場人物たちは、彼らが伝える音楽・文化に魅了され、共に過ごすことで豊かな日常を手に入れます。謎に包まれた一族が見せる意外な一面や、取り巻く人々の陽気な人間模様も魅力的ですが、軸となる“音楽”の神秘的な素晴らしさは「一度聴いてみたい」と興味をそそります。表題作のほか、短編を2編収録しています。

F

Mo,24

## 『さくら 原発被災地に

### のこされた犬たち』

馬場国敏／作 江頭路子／絵  
金の星社／発行  
2011年12月／刊

913

パパ

人と犬をつなぐ絆を守りたい。

東日本大震災が起こった直後、原子力発電所の事故により住み慣れた土地を離れなければならなかった人々は、愛するペットたちとの別れも経験しました。獣医として震災に携わってきた著者が、現場で聞き知った被災動物達の現実をもとにして綴った物語です。主人公の少女と、少女のもとへ帰ることを夢見る飼い犬のさくらを通して、今もなお続く震災の悲しみ、救護活動の大切さを伝えます。



お問い合わせは  
こちらまで♪

■編集■  
佐賀県立図書館 企画課  
図書館ネットワーク担当  
平成24年3月発行